

Co だより

～自閉症カンファレンス NIPPON 2019～その 1

令和元年 8月24日(土)・25日(日) 早稲田大学 早稲田キャンパス 14号館

『自閉症の人のラーニングスタイル』 ～自閉症の人が見ている世界～

クリスチナ・オラホバツ (TEACCH 自閉症プログラム 臨床ディレクター)

Structured TEACCHing (ストラクチャードティーチング)

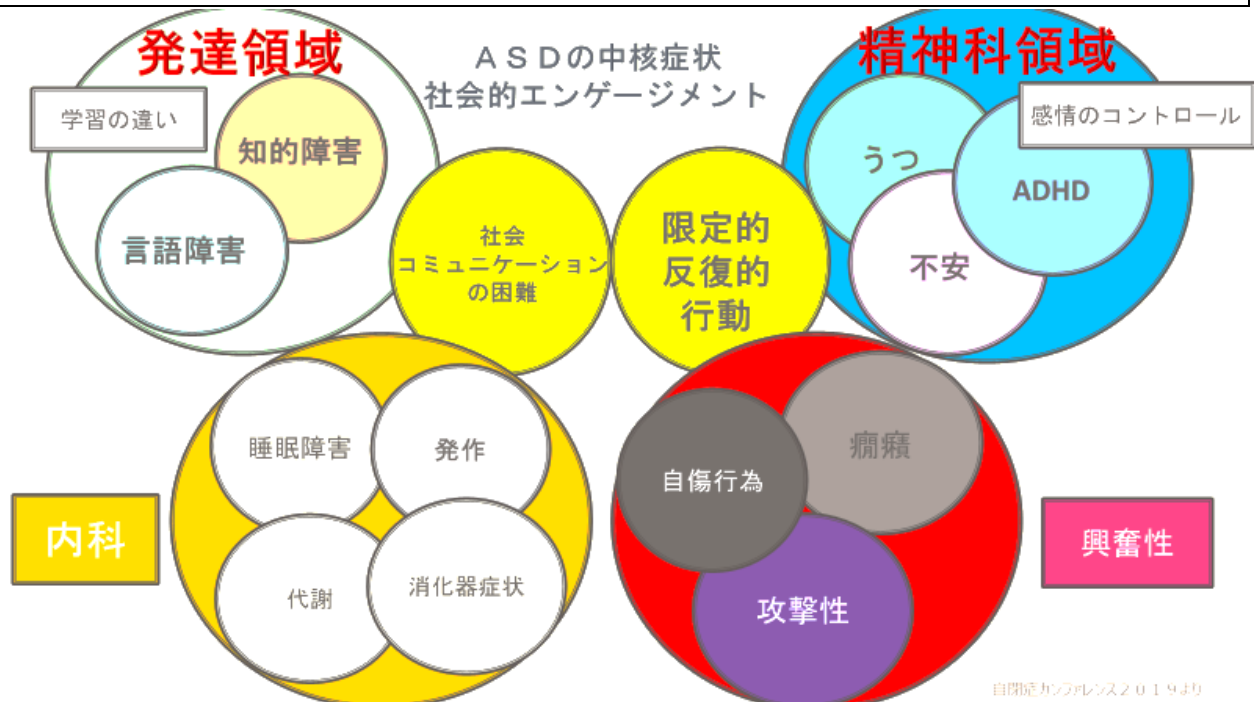
- ① **エンゲージメント** (言葉の意味としては「約束」「契約」という意味だが、深い意味では、信頼し合い、互いに貢献し合う概念のことを指す)が高まると新しいスキルを学ぶことができ、問題行動が減る。
- ② **全人的視点**で捉える。その人を取り巻く環境(家族と友人、精神保健、身体的健康、居住、就労、自立)も含めた支援を行うことが必要なのである。小さい子どもでも大人になったらどうなるのかという視点をもつことが大切である。
- ③ **生涯に渡る学習者**として、問題行動に対しても、今だけでなく、将来に対しても有効な支援を行う。本当の自立を目指すためには、QOL (クオリティ オブ ライフ)を高める必要がある。誰かに依存しなくてもやりたいことができる方向にスキルアップしていけると更に良い。物事は、思ったとおりにならないことが多い。柔軟性も大切で、我々も自閉症の方もともに柔軟性を高める必要がある。セルフアドボカシー (自己権利擁護)スキルは成人期の就労においては欠かせないスキルである。自分に必要な支援を求められるように、子どもの頃から少しずつ支援を求める経験を積み上げるように育てていくことが望ましい。



自閉症の原因

- ① 遺伝的リスク
- ② 環境要因 (親の年齢が高い、未熟児/低出生時体重、薬、妊娠間隔の短さ、環境汚染)

知的障害や学習障害、他の精神障害を併存していることが多く、同時に医学的な懸念や行動面での懸念も



ASDは般化を困難にする…「自閉症のある1人に対しても、自閉症のある人1人に対したに過ぎない」

【不均一な発達パターン】

- ・感覚探求する子もいれば、回避する子もいる。
- ・知的に重度の子もいれば、優秀な子もいる。
- ・運動の遅れがある子が多いが、優れた能力を示す子もいる。



- 不均一な発達パターンにより、親も教師もフラストレーションを生じやすい。
- 「強み」や「長所」を生かすことが重要。

学習スタイル

- ・視覚処理の強さ（聴覚処理はあまり強くない）
- ・抽象的概念/意味の理解の困難（「片付けなさい」と言われても何をどうしたらよいかわからない）
- ・口頭言語の処理の遅延（処理が遅延するので、待つことも必要で、30～40秒待つこともある）
- ・潜在学習（自動的学習）は比較的弱い（例：ペーパータオルを窓ふきで1巻きすべて使用した）
- ・アイデアの統合より記憶に優れる（例：バスの音で車種がわかるが公共交通機関の必要性はわからない）
- ・般化の困難（以前の学習や経験に基づいて何をすべきかを知ることの難しさ）
- ・細部への焦点（全体を見て、意味を理解することの困難）
- ・複数の視点をもつことの困難（人と物に同時に注意を向けたり、見ながら聞いたりすることの困難）

実行機能

- ・時間は抽象的な概念のため、順序立てや開始が困難であり、終わりの概念の理解が難しい。例えば、中断されると永遠に終わりと考えてしまうことがある。
- ・構造化により予測性を高めたり、ルーティン化したりするだけでなく、スケジュールは枠組みとして扱い、スケジュールの中に「？」の部分を入れておき、その時間は何をするかわからないという時間も設定して柔軟性を培っていく。

感覚処理

- ・過度の刺激や過度の反応は避ける。
- ・感覚入力のフィルタリングや調整の問題があり、感覚のフィルタリングができず、不安になる。
- ・広いオープンスペースへの対応の困難がある。
- ・予測性や秩序を好む。やっている活動の意味がわかると楽しめるので、どういう意味があるのかを伝えることも必要。
- ・狭い興味関心に深く入り込んでしまう。

行動の問題を予防する（アセスメント）

- ① 行動観察（どういった行動を取ったのか）
- ② 支援者が期待する行動は何か。
- ③ 原因（仮定）は何か。
- ④ どういった視覚支援が必要か。どういったスキルを必要としているか。（介入の部分）

〈例1〉成功例

- ① 床に座り込んで片付けをしない。
- ② 片付けをして、スケジュールチェックに行く。
- ③ 実行機能障害がある。特に順序や終わりの概念が理解できていない。
- ④ 遊ぶ前にスケジュールを教え、順序を理解させる。また、終わりをはっきりさせる。カウントダウンを行い、終わった課題は箱に入れることで、終わりを意識させる。[Co だより選集 34 ページ (第 38 号) 参照]

〈例2〉の失敗例

- ① スクールバスに乗車中、わめき騒ぎ続ける。
- ② 静かに乗車していて欲しい。
- ③ わめく声がフィードバックで楽しい。（感覚処理の問題）
- ④ 首から提げるスケジュールを持たせた。また、おもちゃなどを持たせたり、ストレス解消グッズ等を持たせたりした。

〈例2〉の成功例

- ① スクールバス乗車中、わめき騒ぎ続ける。
- ② 静かに乗車していて欲しい。
- ③ 実行機能の問題があるので、視覚的なりマインダーが必要。
- ④ ○○すべきだという写真を渡した。具体的には「シー！」というポーズをしている写真と家に着くんだという写真を首から提げるようにした。[「おたすけたまごっち！」絵カードは Co だより選集 29 ページ (第 35 号) 参照]

